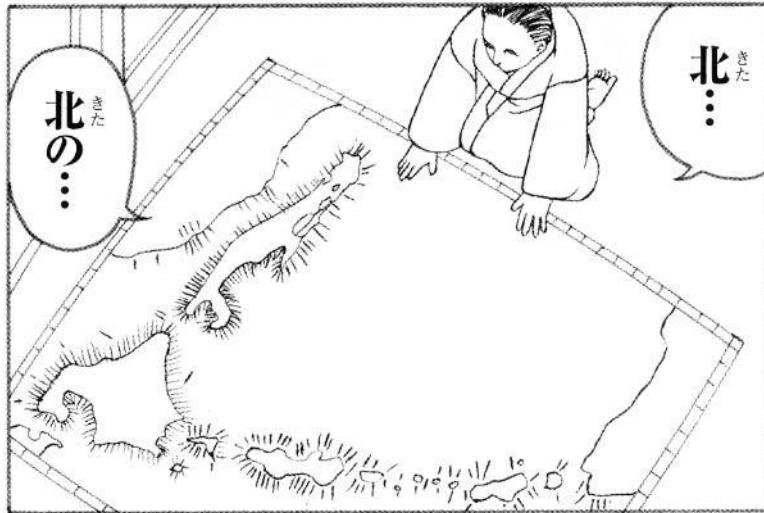




閏4月7日、  
江戸城へ行つてみると、







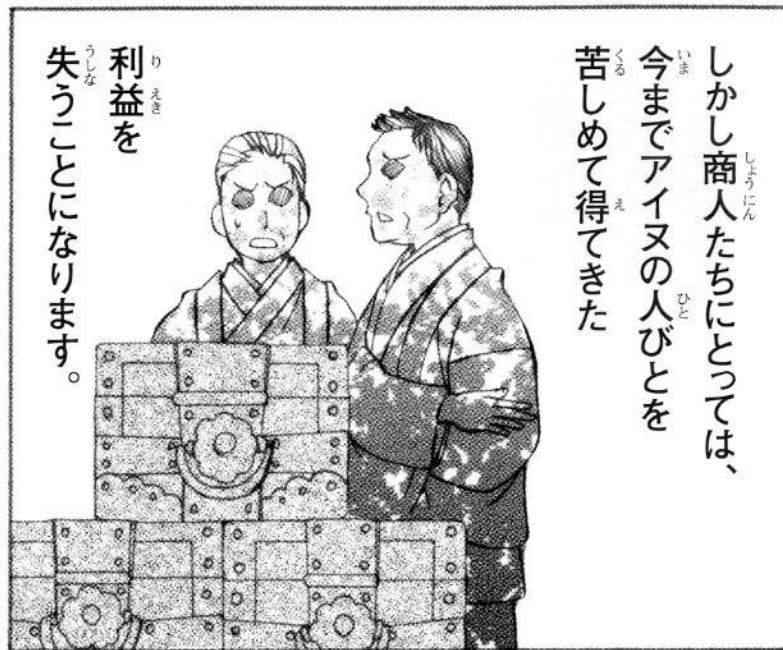
明治2年、政府から開拓使の開拓判官に任命された私は、ついに蝦夷地に代わる名前を考えることになりました。

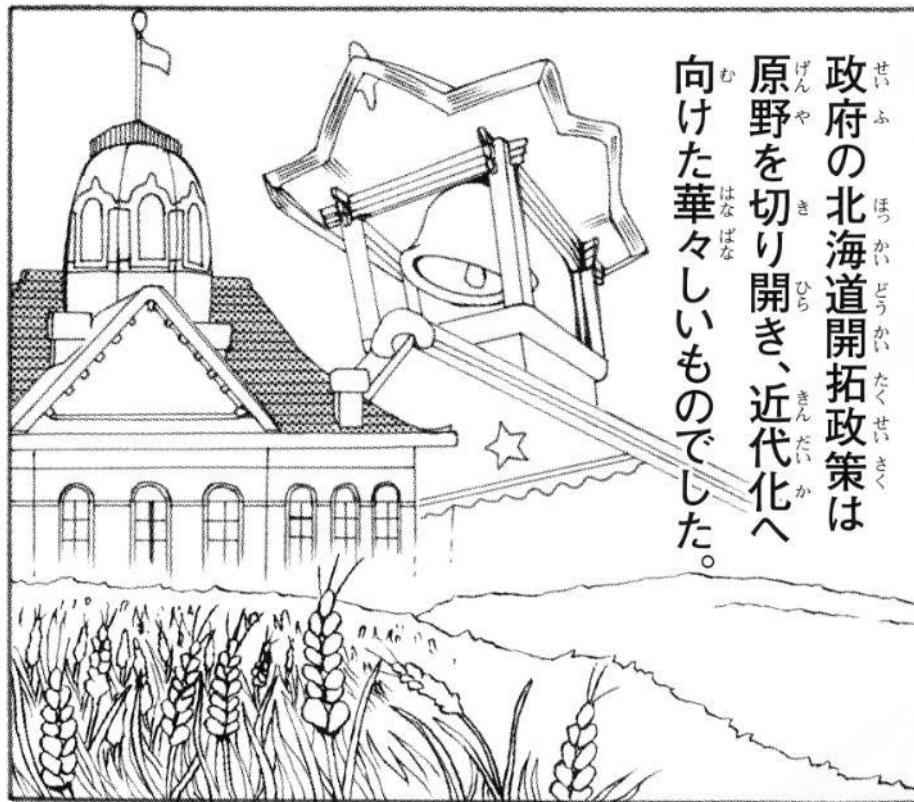


「カイ」とはアイヌ語で  
「この土地に生まれた者」  
という意味で、  
アイヌの人びとを  
指すものでした。

「北加伊道」  
ほっかいどう  
というの  
はどうだろう!!







政府の北海道開拓政策は  
原野を切り開き、近代化へ  
向けた華々しいものでした。



そうした中で  
わたしの意見はなかなか  
聞き入れられません。



アイヌの人びとが安心して  
暮らすことができる北海道を  
目指していた私は――

アイヌ語など、独自の文化が  
消えることにもつながりました。





時は流れ、おじい  
さんになつても  
政府を辞めました。

探検への  
思いはおとろえ  
ませんでした。



68歳から、妖怪がいると言われ、  
登る人も少なかつた  
大台ヶ原を探検しました。

政策に反対して、今までの功績により  
与えられた従五位の位を  
国に返し、



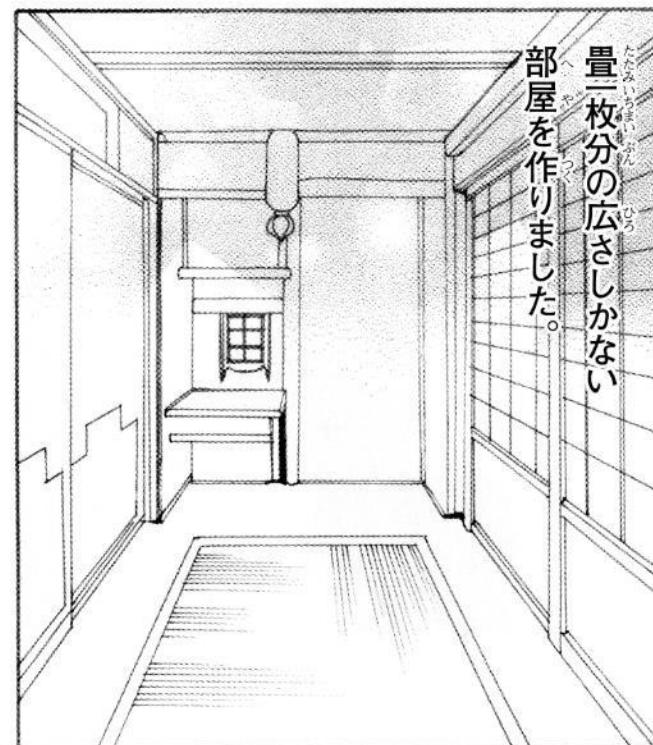
登つたんですよ  
富士山にも



70歳には

じさ





そして、その部屋で  
寝起きをして  
お客様が来ると

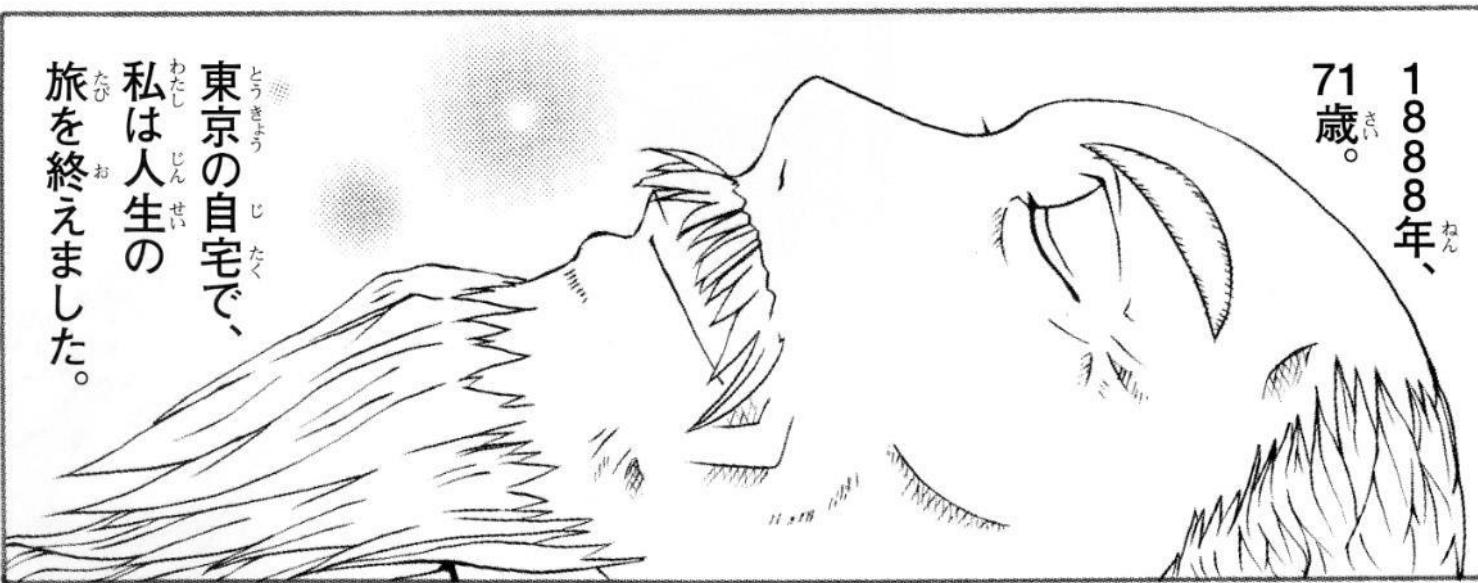
これはな、  
その古い材木に関する  
旅の思い出話を懐かしく  
語りました。



もちろん、アイヌの  
ひとびとの思い出も  
胸の中にしつかりと  
刻まれています



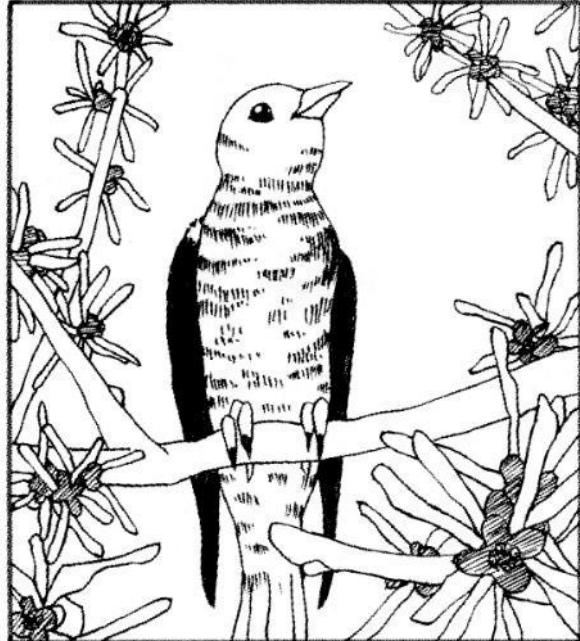
そして、



日本じゅうを歩き、  
にほん ある



北海道の探検に力を  
ほっかいどうのたんけんちから  
つくした人生でした。



## 人生最期の場所と

決めていた大台ヶ原には、  
わたしの遺言により建てられた

分骨碑が、今も深い森の中に  
ひつそりとたたずんでいます。